

総裁記者会見要旨 (10月10日)

G7 終了後の中川大臣・白川総裁 内外記者会見における総裁発言要旨

2008 年 10 月 11 日

日本銀行

於・ワシントン

2008 年 10 月 10 日(金)

午後7時15分から約30分間(現地時間)

【冒頭発言】

今回のG7では、国際金融市場や金融機関の経営を巡る状況が緊張の度を高める中で、国際金融市場の安定性と金融システムに対する信認を確保するために、G7 各国が強い決意をもって、必要な施策を迅速に推進していくことを確認いたしました。先ほどの大臣の説明にもありましたとおり、当局として何をすべきか、その行動を強く意識し、かつそのことを明確なメッセージで送るということに最大限の注意を払ってこれに臨んだという感じがいたします。私の方からは日本経済の状況や金融市場の状況について説明しました。特に日本の経験を踏まえまして、金融市場の安定を確保していくことが大事であるということを強調いたしました。

【問】 今回の G7 による行動計画の中には、大手金融機関については破綻させないという極めて強い決意が表明されていると思うのですが、大手金融機関としてどのような範囲の金融機関を想定しておられるのかご説明いただければと思います。

【答】 公表文に書かれている言葉が全てであります。システムック・リスクの顕在化を防ぐということが非常に大事な課題になります。そういう観点から、大きな金融機関の破綻を防ぐということでありまして、具体的な定義を細かく議論する時ではなく、そうした強い意志をもって臨むということだと理解しております。

【問】 公表文の中に「必要かつ適切な場合には、マクロ経済政策上の手段を活用する」とありますが、これはいわゆる財政出動による景気刺激や金融政策の発動ということ想定されているのか、その辺のご理解をお伺いします。

【答】 マクロ経済政策は財政政策、あるいは金融政策が通常念頭に置かれるということでしょうけれども、ここではあくまでも必要でそれが適切な場合には対応するということを謳っていると理解しています。

【問】 確認ですが、要するに財政政策および所謂金融政策ということを含めて検討することを促しているという解釈でよろしいでしょうか。

【答】（「公表文で確認されている事項はそこに１～５で示されているものであり、その１を公表文の最後で強調している」旨の大臣のご発言と）全く同じであります。財政政策も金融政策も、何時如何なる時でも必要な時に、それから適切な時に行うという意味であります。そうした政策当局としては当然の原則をここで改めて確認していると理解しております。

【問】 事前には日本について政局が安定していない、選挙を前にして頼みに足りないというような批判もあったと思いますが、今回終わってみてやはり一定の存在感というものを日本は示すことができたとお考えでしょうか。

【答】 私も大臣と同じような感情をもっておりまして、当事者自身が自分達の存在感を云々するのは適切でないと思います。ただし、この G7 の場だけではなく、前後の色々な会合も含めて大きな金融の危機を経験した国、この十数年で考えますと日本と北欧ですけれども、この２つの事例は一連の会議、意見交換の場で比較的多く言及されていた、という感じはもっています。

以 上